

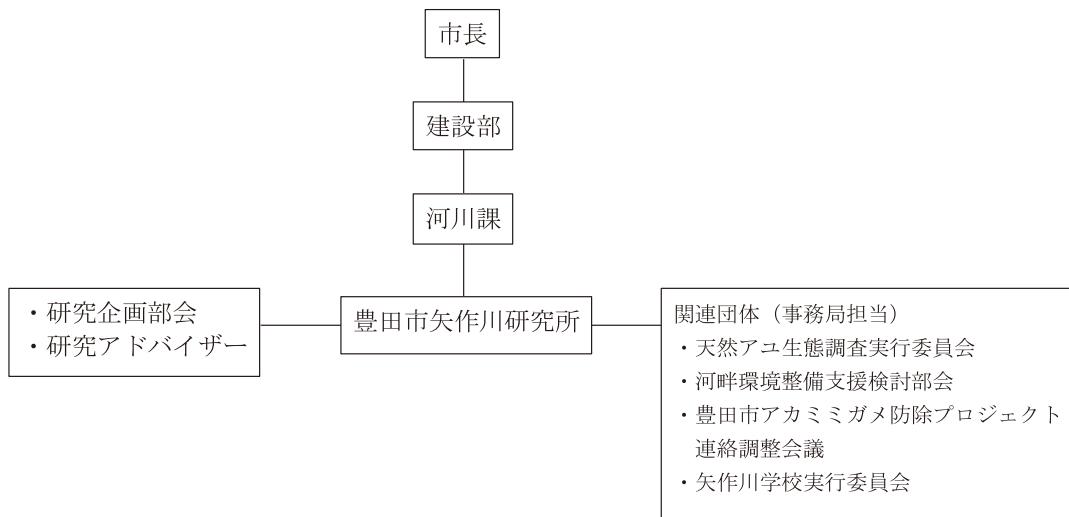
2024 (令和 6) 年度

豊田市矢作川研究所事業報告

設立目的・経緯

豊田市は流域住民の生活を根底で支える矢作川の豊かな自然を守るとともに、より一層の河川環境改善を図るため、1990（平成2）年に矢作川に関する行政、諸団体、学識者等によって構成される「豊田市矢作川環境整備計画検討委員会」を設立しました。本研究所はその委員会の提言を受け、計画の実現と発展を目的として1994（平成6）年7月に豊田市と矢作川漁業協同組合、枝下用水土地改良区（現 豊田土地改良区）の民間2団体との第三セクター方式で発足しました。2003年（平成15年）4月には豊田市営となり、矢作川の豊富な水量の維持、水質の保全、住民の生活にうるおいとゆとりを与える良好な河川環境の維持と創造をめざして調査・研究活動を行っています。

組織図



職 員

職名	氏名	専門分野
所長	宮田昌和	
担当長兼研究員	山本大輔	魚類
事務担当	濱野綾子	
事務担当	川村香里	
主任研究員	洲崎燈子	植物
研究員	小野田幸生	魚類
研究員	内田朝子	藻類
研究員	白金晶子	水生生物
研究員	浜崎健児	昆虫
研究員	吉橋久美子	環境社会学

研究企画部会

豊田市矢作川研究所において実施する調査研究活動を推進し、市民生活の豊かさに寄与できるよう、平成30年度に府内関係部、河川管理者、研究アドバイザーからなる研究企画部会を設置。

職名	所属	専門分野
部会長	豊田市 建設部 部長	
会員	豊田市 企画政策部 副部長	
会員	豊田市 地域振興部 自治推進室長	
会員	豊田市 環境部 副部長	
会員	豊田市 産業部 農林振興室長	
会員	豊田市 都市整備部 副部長	
オブザーバー	国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官	
オブザーバー	愛知県豊田加茂建設事務所 企画調整監	
アドバイザー	関西学院大学 名誉教授 古川 彰	環境社会学
アドバイザー	大阪府立大学 名誉教授 谷田一三	河川生態学・分類学
アドバイザー	東京学芸大学 教授 吉富友恭	魚類生態学・環境教育学

研究所事業概要

1. 矢作川生態系リフレッシュ調査

事業目的 矢作川に複数設置されたダムは、河床環境の改変や取水および河川流量の制御によってアユをはじめとする水生生物群集に大きな影響を及ぼしていると考えられる。その因果関係を明確にし、対策方針を提案するために、河床環境および河川流量の変動に関する情報収集ならびにアユの生息状況調査を実施する。

事業概要

1. 矢作川の中下流域において、アユの産卵場の探索と河床環境調査を行い、産卵場を規定する河床環境について検討した。
2. ダム下流における土砂と水生生物との応答を把握するために、アーマー化したダム下流（満砂状態の百月ダム下流の池島）において、河床環境及びアユ密度等を調査した。
3. 矢作川の中流域において透明水路を用いた野外実験を行い、礫河床及び砂河床における付着藻類の一次生産を定量化する手法の適用可能性について検討した。
4. 矢作川中流域において河床材料の変化に対するアユ密度の変化を把握するために調査を行った。あわせて、水際の緩斜面化に伴いエコトーンの植物群が再生するか検証調査を行った。

2. 河畔環境整備支援

事業目的 河川管理者と行政と市民との共働による持続的な自然保全活動によって、矢作川の荒廃した河畔林の景観を改善し、多様な生物の生息する環境に再生させる。また、市民による川の恵みを生かした水辺愛護活動の支援を行う。

事業概要

1. 2021年に間伐を行ったお釣土場水辺公園内の河畔林で、伐採後の光環境と植生調査を行った。本数伐採率が50%以上の間伐を行っても林床植生は増加せず、更に光環境を改善する必要があることが明らかになった。
2. 水辺愛護活動の活性化をめざし、会員によるニホンミツバチの養蜂に対して支援を行った。また、ヒマワリとトウモロコシを栽培し、夏の蜜源・花粉源となるか調査を行った。
3. 企業ボランティアの水辺愛護活動への参画を支援した（百々水辺愛護会×トヨタ自動車寮生会（継続）、太田川河川愛護会×トヨタ自動車EX会（新規））。
4. 次年度の管理・活動計画図作成の対象地として、お釣土場水辺公園を選定し、中越戸水辺愛護会および下越戸水辺愛護会とともに管理・活動計画図を作成することとした。

3. 河川等環境調査研究

事業目的 これまでの調査で把握した河川が抱えている問題に対し、その解決方法を提案する。特に、河川生態系への悪影響が懸念されている外来生物ミシシッピアカミミガメを対象に、防除に関する調査研究を行う。

事業概要

1. 環境省アカミミガメ対策推進プロジェクト（2016–2018）および豊田市アカミミガメ防除プロジェクト実行委員会（2019–2021）での調査研究成果をまとめた防除マニュアルを活用し、地域で実施されている防除活動に対して活動計画策定や道具類貸出等の支援を行った。

4. 矢作川流域モニタリング調査

事業目的 矢作川本川の上流から下流において、生物相とその変化を把握することを目的にモニタリング調査を実施する。また、間伐が人工林の水源かん養機能を高めるか検証する調査の一環として、林内の植生調査を継続する。

事業概要

1. 矢作川本流におけるコケ植物の流程分布および季節変化を把握した。
2. 外来生物（カワヒバリガイ・オオカナダモ）の経年変化を把握した。

3. 早春における水生生物（付着藻類・底生動物）の経年変化を把握した。
4. 本数伐採率42%の伐採を行った人工林で伐採5年後に林床植生と林内の光環境を調べたところ、光環境の改善と林床植生の回復は確認されなかった。

5. ふるさとの川づくり事業

事業目的 市内の多くの中小河川では土砂の堆積や草の繁茂による景観の悪化、川で遊ぶ親子の姿が見られない、治水安全度が低下し浚渫費や草刈費が増加するなどの問題がある。そこで、豊田市が管理する河川において、浚渫工事に合わせた多自然川づくりを地域住民と共に働きで行い、地域に愛されるふるさとの小川を再生する。

事業概要 1. 広沢川の取り組み（5年目）

2021年度に作成した未来希望図に沿って、猿投町まちづくり協議会と共に川づくりを進めた。

- ・5月26日 20人 草刈り勉強会（ツルヨシの抜き取り）
- ・8月4日 23人 川遊び体験会（生き物を捕まえる、川の流れを学ぶ）

12～3月にかけて、広沢川の一部で浚渫等の河川修繕を行った。

2. 一ノ瀬川の取り組み（1年目）

一ノ瀬川にて川遊び体験会、寺下町公民館にて未来希望図作成に向けたワークショップを行い、寺下自治会と共に川づくりを進めた。

- ・8月17日 33人 川遊び体験会（生き物を捕まえる、川の流れを学ぶ）
- ・10月27日 32人 第1回ワークショップ「一ノ瀬川の昔の思い出を語る会」
- ・2月23日 13人 第2回ワークショップ「川の未来をみんなで描こう！」

3. 岩本川の活動支援

- ・平井小学校の岩本川での校外学習を、岩本川創遊会とともにサポートし、生物の解説などを行った。

2年生の授業：6月28日、9月26日、4年生の授業：6月4日、11月26日

6. 研究所報等の発行

事業目的 調査研究活動の内容と成果を、広く社会に公開するために年報・季刊誌・広報誌等を発行する。

事業内容

・所報「矢作川研究No.29」を作成・発行	発行部数：450部
・季刊誌「Rio No.231～234」を作成・発行	発行部数：各1,400部
・メールマガジン「いいじやん！矢作川！75号～78号」を配信	

7. シンポジウム等の開催

事業目的 調査研究活動の内容と成果を、広く社会に公開し、「ふるさとの川—矢作川」を再認識し、河川および周辺地域環境の回復・維持の一助とするために開催する。

事業内容 日時：2025年2月1日（土）13:30～17:00

場所：豊田市博物館セミナールーム

およびオンライン配信（豊田市YouTubeチャンネル）

内容：報告 豊田市矢作川研究所30年の歩み～地域に根差した川の研究所

豊田市矢作川研究所／山本大輔

アイスブレイク 写真で見る「矢作川の今」

豊田市矢作川研究所／内田朝子 小野田幸生 白金晶子 洲崎燈子 浜崎健児

山本大輔 吉橋久美子

ディスカッション これからの矢作川研究所

豊田市矢作川研究所／内田朝子 小野田幸生 白金晶子 洲崎燈子 浜崎健児

山本大輔 吉橋久美子

関連団体事業概要

1. 天然アユ生態調査実行委員会

事業目的	矢作川の良好な河川環境の指標を「天然アユが大きく育まれる生息環境」と位置付け、その生態調査を主体とする調査研究事業を行う。生息環境の改善手法を関係機関に提言または関係機関と共同で実践することにより、良好な生態系が営まれる河川環境の保全創出を図る。以上により、自然豊かな矢作川を次世代の子どもたちに引き継ぐことを目的とする。
事業内容	天然アユの生息状況調査、生態解明研究、生息環境の改善に寄与する計画策定および実証実験等を行う。本年度は河床環境とアユなどの水生生物との関連についての調査およびとりまとめ、アユ産卵場の現地調査を実施した。 <ul style="list-style-type: none">・調査研究概要<ol style="list-style-type: none">1) ダム下流域における河床環境と水生生物の応答<ol style="list-style-type: none">a. 河床耕耘による河床環境改善の評価（コケ植物・アユを指標として）b. 百月ダム下流における河床材料調査c. 河床材料の変化による底生動物の応答2) 河道内に形成されるワンド・タマリが水生生物の生息に果たす役割の評価3) 豊田大橋周辺の瀬再生事業の評価4) アユ遡上調査（越戸ダム右岸魚道で実施）5) 産卵環境改善に向けた調査（産卵場調査）
構成団体	<ul style="list-style-type: none">・矢作川漁業協同組合・矢作川天然アユ調査会・国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所・愛知県豊田加茂建設事務所・豊田市

2. 豊田市アカミミガメ防除プロジェクト連絡調整会議

事業目的	豊田市内を流下する逢妻女川および逢妻男川に生息するミシシッピアカミミガメの防除を地域住民、協力企業、教育機関、行政機関が共働で取り組み、良好な生態系が育まれる河川環境の保全・創出を図る。
事業内容	活動地域の拡大および地域活動の発展を目的として、これまでの成果をまとめた防除マニュアルを活用し、防除活動および啓発活動の支援等を行った。 <ul style="list-style-type: none">・防除活動の支援<ul style="list-style-type: none">工場内調整池（5月6日、7月15日、9月23日：トヨタ自動車（株）貞宝工場・豊田西高等学校）逢妻男川（5月24-26日、10月18-20日：初音川ビオトープ愛護会・トヨタ自動車（株）堤工場）逢妻女川（6月12-15日、10月2-3日：逢妻女川を考える会）猿渡川（7月5-6日：トヨタ自動車（株）上郷工場）逢妻男川（7月20-21日：若園地区コミュニティ会議・トヨタ車体（株）吉原工場）長根池（10月15-16日：日本カメ自然史研究会）（2024年度より実施）・啓発活動の支援<ul style="list-style-type: none">逢妻女川（6月16日：逢妻交流館・逢妻女川を考える会）逢妻男川（7月21日：トヨタ車体（株）吉原工場・若園地区コミュニティ会議）・連絡調整会議の開催<ul style="list-style-type: none">2025年2月17日に豊田市職員会館第一部室で開催（2024年度より年1回に変更）
構成団体	<ul style="list-style-type: none">・逢妻女川を考える会・初音川ビオトープ愛護会

- ・トヨタ自動車株式会社堤工場
- ・トヨタ自動車株式会社上郷工場
- ・日本カメ自然誌研究会
- ・豊田市矢作川研究所
- ・トヨタ車体株式会社吉原工場
- ・トヨタ自動車株式会社貞宝工場
- ・豊田市環境政策課

3. 矢作川学校実行委員会

事業目的 矢作川流域に川のある市民生活を取り戻して、河川環境や川の文化を守る人材を養成し、さらに川遊びを通して健康な子供を育てることを目的とする。

事業内容 ・小中学校の環境学習及び交流館の自然観察会などの要請に応えて講師を派遣する。
出前講座等

実施期間：2024年4月～2025年3月

実施状況：計16回実施 講師は延べ18人

・事業における参加者総数646名

1) 矢作川学校講師派遣一覧

日付	主催	対象者	内容	講師名
2024.4.30	豊田市立小渡小学校	1, 2年生児童	観察会（水生生物）	山本大輔
2024.5.16	豊田市立久久平小学校	4年生児童	座学「水生生物について」	山本大輔
2024.5.22	豊田市立幸海小学校	4年生児童	観察会（水生生物）	山口健一
2024.6.8	初音川ビオトープ愛護会	愛護会会員	観察会（植物）	洲崎燈子
2024.6.16	逢妻交流館	豊田市立小清水小学校 美山小学校児童と保護者	・観察会（水生生物）	浜崎健児
2024.6.29	あいち豊田農業協同組合	幼児を含む一般市民	観察会（水生生物）	浜崎健児
2024.7.3	豊田市立御蔵小学校	2年生児童	観察会（水生生物）	白金晶子
2024.7.6	若林交流館	若林地域の小学生と親	観察会（水生生物）	小野田幸生
2024.7.9	豊田市立西広瀬小学校	全校児童・教員	座学「水生生物について」	白金晶子
2024.7.21	永覚みどりの会	永覚こども会会員	観察会（水生生物）	内田朝子 宇地原永吉
2024.7.21	トヨタ車体吉原工場	小学生と家族	観察会（水生生物）	浜崎健児
2024.7.27	豊田市教育自主研究会環境教育	教員および教員の子ども グループ	観察会（水生生物）	山本大輔
2024.8.5	福井県大野市くらし環境部環境 循環課	中学生	講座「suisui サイエンス講座」 と状況調査	内田朝子
2024.9.20	豊田市立古瀬間小学校	4年生児童	座学「水生生物について」	山本大輔
2024.11.10	可児市めだかの楽校	可児市めだかの楽校	観察会（水生生物）	小野田幸生
2024.11.19	豊田市立寿恵野小学校	4年生児童	座学「水生生物について」	浜崎健児

2) ミニシンポジウムの開催

実施期日：2025年3月1日（土）

実施場所：豊田市博物館セミナールーム

実施内容：大学生・大学院生等による発表10題

参加者：41名

対面とオンラインのハイブリッド開催

刊行物 年報 『矢作川研究』

豊田市矢作川研究所の活動内容と調査研究成果をはじめ、矢作川流域等の自然科学、社会科学に関するさまざまな報告を、募集、編集、発行する。

以下の内容を掲載した No.29 を、2025 年（令和 7 年）1 月 1 日に発行した。

タイトル	著者
はじめに	宮田昌和
矢作川で 1 月に確認されたアユ流下仔魚	山本大輔
効果的な川学習の教材作成に向けたタモ網を用いた籠川での魚類調査	小野田幸生
ヒノキ人工林伐採後の光環境と林床植生の変化	洲崎燈子 ファラナク モイン 小椋崇弘
矢作川明治用水頭首工下流におけるアユの産卵場分布域と河床特性	間野静雄 小野田幸生
防除したミシシッピアカミミガメを堆肥化する試み	中元一則 清田佳奈 原 晋太郎 山本大輔 浜崎健児
ヤゴに付着したナガレユスリカ属幼虫の巣について	近藤繁生 鶴殿清文
合流点付近における籠川と矢作川の水質：平常時における支川から本川への栄養塩の供給の見積もり	野崎健太郎
豊田市蕪木町におけるハチクの高さ 1 m での伐採結果（伐採後 3 年間のモニタリング結果）	伴 邦教 吉村友利 洲崎燈子
解題・翻刻：補助用水開削関連史料—枝下用水普通水利組合文書（明治四十二年～四十四年）	達 志保 熊澤美弓 野原由佳 吉田瑠那 古川 彰
2023 年度 豊田市矢作川研究所シンポジウム記録	
市民連携で進める川づくり	
2023（令和 5）年度 豊田市矢作川研究所事業報告	
『矢作川研究』に投稿される方へのお願い	
編集後記	

刊行物 季報 『Rio』

号数	(発行年月)	タイトル	著者
No.231	(2024.4)	川の小さな藻、もっと、もっと知ってほしいな ～川のアカ腐れとミズワタ～ 藻は役に立っていた 研究員の作業紹介～まるでチリメンモンスター探し～ 矢作川研究所日記	内田朝子 中本信忠 山本大輔
No.232	(2024.7)	矢作川研究所 30 年のあゆみ 日本水大賞環境大臣賞を受賞しました	
No.233	(2024.10)	川底に関連した矢作川研究所のこれまでの取組み ダム下流の川底で見られる生き物の暮らしぶり 砂の多い・少ないによる川底の違い ダム下流で見られる生き物図鑑 エクスカーション（野外体験学習）を行いました	小野田幸生 内田朝子 白金晶子
No.234	(2025.1)	川辺の生き物を調べる 川辺を守る人を支援する 川辺の生き物と、川辺を守る人に対する研究所のこれから エクスカーションを行いました	洲崎燈子 浜崎健児 吉橋久美子

学術誌・書籍等発表

著者名	年	タイトル等	書籍・雑誌名
吉田 誠・山本大輔 鶴田博嗣	2024	愛知県矢作川における外来魚チャネルキャットフィッシュ生息の再確認	伊豆沼・内沼研究報告, 18: 71-85.
吉田 誠・山本大輔 鶴田博嗣	2024	矢作川水系における外来魚チャネルキャットフィッシュの現状：分布情報の確度を考慮した生息域の再検討	保全生態学研究, 29: 143-157.
内田朝子	2024	矢作川のアオンドロ研究	鮎釣り 2024 別冊つり人, 589: 138-141.
末吉正尚・宮川幸雄 小野田幸生・堀田大貴 森 照貴・中村圭吾 萱場祐一	2025	土砂バイパスによるダム下流生態系の再生～小渋ダムでの回復度合いと必要な時間～	ダム技術, 460: 19-26.

学会発表等

日付	学会名	タイトル	発表者
2024.11.9-10	日本河川教育学会第4回福島大会（福島県福島市）	豊田市における流域学習プログラムの実践	山本大輔・深見隆之助（豊田市森林課）・弘中陽介（豊田市環境政策課）
2024.11.9-11	第44回 水生昆虫研究会（滋賀県高島市）	土砂還元が行われている矢作川のヤマトビケラ科に関する報告	白金晶子
2025.2.15-16	日本陸水学会東海支部会第27回研究発表会（静岡県浜松市）	矢作川下流域におけるアユ産着卵の継続調査	小野田幸生
2025.2.15-16	日本陸水学会東海支部会第27回研究発表会（静岡県浜松市）	矢作川流域で確認されたホソカワモズク <i>Paludicola turfosu</i>	内田朝子, 洲澤多美枝, 洲澤 譲（有限会社河川生物研究所）
2025.3.15	第514回水生昆虫談話会	矢作川におけるヤマトビケラ科の生態—分布および物理環境、アユとの関係—	白金晶子

委員等の派遣

日付	委員会事務局	委員会名	担当者
2024.4.1-2025.3.31	国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所	矢作川流域圏懇談会	洲崎燈子
2024.4.1-2025.3.31	国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所	矢作川自然再生検討会	洲崎燈子
2024.4.1-2025.3.31	トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車新研究開発施設に係る環境監視委員会	洲崎燈子
2024.4.1-2025.3.31	国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所	矢作川水系流域委員会	小野田幸生
2024.4.1-2025.3.31	国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所	矢作川水系総合土砂管理検討 河道・環境ワーキンググループ	小野田幸生
2024.4.1-2025.3.31	国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所・矢作ダム 管理所	矢作川水系総合土砂管理検討委員会	白金晶子

マスコミ報道

日付	メディア	タイトル	関連事業
2024.4.9	中日新聞	森林学校 新体制に	
2024.6.14	矢作新報	東海豪雨で始まった森づくり振り返る	
2024.7.1	広報とよた 7月号	命育む、矢作川	設立 30 年記念
2024.7.1-7.7	とよた NOW 特集 (ひまわりネットワーク)	(ひ 命育む、矢作川 まわりネットワーク)	設立 30 年記念
2024.12.8	矢作新報	川辺で体験見学会 矢作川研究所 30 周年で	
2025.1.1	矢作新報	矢作川「流域意識」育もう！ 豊田市役所 3 部署が連携プロジェクト	
2025.2.3-2.4	とよた NOW (ひまわり ネットワーク)	豊田市矢作川研究所シンポジウム	シンポジウム
2025.2.7	新三河タイムス	矢作川研究所設立 30 周年シンポ	シンポジウム
2025.2.24-3.28	ひまわりネットワーク	豊田市矢作川研究所 30 年の取り組み ～よく利用され、なお美しい矢作川を目指して～	設立 30 年記念 (自主制作番組)